

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された 事業費の 推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額	19,800,000	38,900,000	18,800,000	77,500,000	16,000,000	16,600,000		32,600,000					0	110,100,000
		実績額	50,000,000	26,500,000	33,800,000	110,300,000	16,000,000			16,000,000					0	126,300,000
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額	829,000	15,978,000	43,541,000	60,348,000				0					0	60,348,000
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	61,097,000	61,097,000	61,097,000	183,291,000	80,142,000	78,741,000	78,741,000	237,624,000	74,741,000	78,741,000	78,741,000	78,741,000	310,964,000	731,879,000
		予算計上額	41,236,000	9,811,000	15,247,000	66,294,000	64,142,000	63,353,000		127,495,000					0	193,789,000
		実績額	15,420,429	42,768,009	41,426,043	99,614,481	59,565,752			59,565,752					0	159,180,233
	事業費合計	計画額	61,097,000	61,097,000	61,097,000	183,291,000	80,142,000	78,741,000	78,741,000	237,624,000	74,741,000	78,741,000	78,741,000	78,741,000	310,964,000	731,879,000
		予算計上額	61,865,000	64,689,000	77,588,000	204,142,000	80,142,000	79,953,000	0	160,095,000	0	0	0	0	0	364,237,000
		実績額	65,420,429	69,268,009	75,226,043	209,914,481	75,565,752	0	0	75,565,752	0	0	0	0	0	285,480,233
	事業費予算の内容		委託料 61,865千円	委託料 64,689千円	委託料 77,588千円		委託料 80,142千円	委託料 79,953千円								
	前年度予算との比較 (増減理由)		小破修繕以外を 直営化したこと による委託料経 費の減	維持管理経費等 の増による委託 料経費の増	維持管理経費等 の増による委託 料経費の増		維持管理経費等 の増による委託 料の増	維持管理経費等 の減による委託 料の減								
実績との比較 (増減理由)		維持管理経費等 の増による委託 料経費の増	維持管理経費等 の増による委託 料経費の増	光熱水費の減に よる委託料の減		光熱水費、人件 費の減による委 託料の減										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：利用回数				指標の求め方：施設の年間利用回数												
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用者数				指標の求め方：施設の年間利用者及び来館者数計												
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総合計画			
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計				
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回/年)	計画値 2,410 実績値 1,569	2,450 2,506	2,490 2,596		2,670 2,489	2,530 2,570		2,650 2,690	2,730 2,770									
		成果指標 1 (単位/人/年)	計画値 59,270 実績値 24,782	59,370 44,789	60,470 50,539		61,570 49,048	62,715 63,820		64,920 66,020	67,120 68,260									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている													
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている													
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない													
		総合評価					良好である													
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、各指標は計画値を大きく下回った。活動自粛や臨時休館、更には感染症防止対策等の制約がある中、指定管理者が工夫を凝らした自主事業を展開することによって、市街地への経済波及効果と市民への新たな芸術文化意識が醸成され、賑わい交流拠点が形成されるよう施設の管理環境を整備した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく運営でき、活動指標は計画値を達成した。外出控えや利用控えが見られる中、成果指標は計画値に及ばなかったものの、利用者数が回復し、昨年度を大きく上回った。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。成果指標は計画値に達しなかったが、前年度を上回り、日常的な賑わいや市街地への経済波及効果、市民の新たな芸術文化意識の醸成に繋がっている。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により各指標が計画値に及ばない時期もあったが、感染症対策環境の整備や指定管理者の工夫により回復傾向にあり、賑わい交流拠点の形成に一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価を「良好である」とした。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設利用は減少、活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかったが、指定管理者であるNPO法人ゆうによる工夫ある自主事業が展開され、世代間交流や市民の芸術文化意識の醸成、日常的な賑わい交流拠点としての活用に繋がっている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：					
	今後の方向性					現状のまま継続														
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館等により利用者数及び来館者数が落ち込んだ時期もあったが指定管理者の工夫により回復傾向にある。令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、コロナ前同様に施設も稼働していくことが考えられる。市内外からの評価は高く、事業も定着していることから、現在の施設機能を維持していく必要があるため「現状のまま継続」とする。						R8：						R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：利用回数	指標の求め方：施設の年間利用回数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設設備の故障による使用不能回数	指標の求め方：施設設備の故障による使用不能回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/回)	計画値 2,410 実績値 1,569	2,450 2,506	2,490 2,596		2,670 2,489	2,530	2,570		2,650	2,690	2,730	2,770		
		成果指標1 (単位/回)	計画値 0 実績値 0	0 0	0 0		0 0	0	0		0	0	0	0		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、当初より計画していた南側駐車場や防災設備の改修の他にも適宜、ボイラー関連の配管やポンプの修繕を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保全を図った。新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な改修を行ったほか、舞台設備やボイラー施設の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修を行ったほか、空調設備の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設使用は減少、活動指標は計画値に達しなかった。開館から18年が経過し修繕が増加傾向にあるが、指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修に取組むほか、エアコンや暖房用加圧ポンプ等の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図り成果指標の計画値を達成した。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 建設後16年が経過し、主要施設設備・建物に係る大規模改修を行う必要がある。指定管理者との連携・協議を行いながら施設設備の現状を随時把握し、計画的に改修できるよう「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：利用回数	指標の求め方：施設の年間利用回数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設設備の故障による年間不能回数	指標の求め方：施設設備の故障による年間不能回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/回/年)	計画値 2,410	2,450	2,490		2,670	2,670	2,670		2,650	2,690	2,730	2,770		
		実績値 1,569		2,506	2,596		2,489									
	成果指標1 (単位/回/年)	計画値 0	0	0		0	0	0		0	0	0	0			
		実績値 0	0	0	0	0										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
		総合評価					良好である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、計画していた大ホールのワイヤレスマイクの更新等を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保全を図った。 新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い、計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設使用は減少、活動指標は計画値に達しなかった。開館から18年が経過し既存備品の故障等が増加傾向にあるが、指定管理者と連携・協議し計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図っているため成果指標の計画値を達成した。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 建設後16年が経過し、主要設備・備品の更新行う必要が生じてきている。指定管理者との連携・協議を行いながら備品の現状を随時把握し、計画的に更新できるよう「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：交付金額(砂川市民文化祭実行委員会交付金)				指標の求め方：交付金額(砂川市民文化祭実行委員会交付金)									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：市民文化祭市民参加率				指標の求め方：（出演・発表者数＋鑑賞者数）/住民基本台帳人口（3月末）×100									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000		500,000	324,000	324,000	324,000		
			実績値 0	324,000	324,000		324,000									
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 15.0	14.5	14.5		14.0	14.0	13.5		13.5	13.0	13.0	12.5		
			実績値 —	6.3	7.8		10.1									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 事業の実現はできなかったが、実行委員会組織の各構成団体から選出される役員を中心として開催されており、それなりに砂川市の文化活動を活性化に寄与している。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民へ文化活動に触れる機会を提供することができた。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、当初の予定通りの交付金額となった。成果指標は計画値に達しなかったものの、前年度と比較すると発表者数、鑑賞者数ともに増加し、実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民へ文化活動に触れる機会を提供することができた。	判断理由： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 活動指標は計画値を達成、実行委員会へ交付された限られた財源を有効活用して事業が展開された。	自己分析： 活動指標は計画値を達成しなかったものの前年度より上昇し、市民が主体となって企画・運営を行うことで出演・出展者と鑑賞者双方が楽しみながら芸術文化活動に取り組む機会となっている。	判断理由： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	判断理由： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 実行委員会が主体的に活動し、経費が限られるなどの制約の中、より良い方法・手段を検討して、参加者（出場・出展・鑑賞者）も楽しみながら芸術文化の振興を図る事業として実施されており、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計		
投入された事業費の推移	国費計画額				0				0					0	0	
		予算計上額			0				0					0	0	
		実績額			0	0			0					0	0	
	道費計画額				0				0					0	0	
		予算計上額			0	0			0					0	0	
		実績額			0	0			0					0	0	
	地方債計画額				0				0					0	0	
		予算計上額			0	0			0					0	0	
		実績額			0	0			0					0	0	
	その他計画額				0				0					0	0	
		予算計上額			0	0			0					0	0	
		実績額			0	0			0					0	0	
	一般財源計画額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000	520,000	520,000	520,000	520,000	2,080,000	5,340,000	
		予算計上額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	1,180,000					0	2,740,000	
		実績額	231,200	214,100	408,844	854,144	476,385		476,385					0	1,330,529	
	事業費合計	計画額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000	520,000	520,000	520,000	520,000	2,080,000	5,340,000
		予算計上額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	0	1,180,000	0	0	0	0	2,740,000	
		実績額	231,200	214,100	408,844	854,144	476,385	0	0	476,385	0	0	0	0	1,330,529	
	事業費予算の内容		文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつり 交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつり 交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつり 交付金 283千円		文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 340千円 みんなの音楽まつり 交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつり 交付金 283千円								
		前年度予算との比較 (増減理由)		みんなの音楽まつり実施内容見直しによる交付金の減	前年度同額	前年度と同額		「空知管内郷土芸術祭兼道民芸術祭」開催地負担金の増	「空知管内郷土芸術祭兼道民芸術祭」開催地負担金の減							
実績との比較 (増減理由)			新型ｺﾛﾅｲﾙｽ感染症拡大防止対策のため「みんなの音楽まつり」を中止したことによる減	「空知管内郷土芸術祭」の減 17千円 新型ｺﾛﾅｲﾙｽ感染症拡大防止対策のため「みんなの音楽まつり」を中止したことによる減 283千円	上部団体負担金の減 「みんなの音楽まつり」事業内容確定による減		文化協会補助金（上部団体負担金）の減 みんなの音楽まつり事業内容決定による減									

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：補助金額				指標の求め方：補助金額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：文化協会加盟団体合計会員数				指標の求め方：文化協会加盟団体合計会員数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	総 合 計 画 計 合 合 計
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 588,000	588,000	588,000		588,000	588,000	588,000		588,000	588,000	588,000	588,000		
			実績値 231,200	214,100	408,844		476,385									
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 170	170	160		160	150	150		140	140	130	130		
			実績値 —	131	131		150									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施すること で、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきているものと判断する。	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施すること で、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきているものと判断する。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかったが、砂川市文化協会が主催する事業を支援することで市民文化の振興を図るとともに、文化協会の役割を明確化することに繋がった。	判断理由： 砂川市文化協会が主催し事業を実施することができ、文化協会の役割を明確化することにつながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上がってきており、「良好である」と判断した。	自己分析： 活動指標は計画値を達成しなかったが、砂川市文化協会の運営費や文化振興事業、みんなの音楽まじりの事業費を一部補助することで、継続的な芸術文化活動の基盤を支えている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
	今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 文化協会の活動を支援する事業として必要であり、砂川市の芸術・文化振興を図る取組について、文化協会と協議しながら事業内容を検討していくことから、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：①指定文化財情報提供回数 ②文化財保護				指標の求め方：①指定文化財情報提供回数をカウント ②文化財保護審議会開催回数をカウント								
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：文化財関連事業市民参加率				指標の求め方：文化財関連事業市民参加者数/住民基本台帳人口（3月末）×100								
				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/①回、 ②回)	計画値 ①3、②2 実績値 ③2、②1	①3、②2 ①2、②2	①3、②2 ①1、②1		①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②2		
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 1.76 実績値 —	1.74 0.08	1.71 0.04		1.68 1.28	1.65	1.62		1.59	1.56	1.53	1.50		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されていて、令和3年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されていて、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されていて、令和5年度は実施に至らなかったため活動指標、成果指標ともに計画値を達成しなかった。実施に至った際には、年末の街頭餅つきや北海道義士祭での活動など、郷土に対する認識や文化財に対する理解を深める機会となると考えている。	判断理由： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されていて、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっており、「良好である」と判断した。	自己分析： 市の唯一の指定文化財である「街頭もちつき」が5年ぶりに開催され、活動指標は計画値を達成した。成果指標は計画値に達しなかったものの、市民が砂川の文化財を再認識する機会となった。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性						現状のまま継続									
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 指定文化財保存のためには保持団体活動の継続が必要であることから、連携体制を密接にして会員数維持などに努めていく。また、文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていくため、文化財に対する理解を深めていく必要があり、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：史跡標柱・開拓記念碑等の数				指標の求め方：史跡標柱・開拓記念碑等の数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数				指標の求め方：史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画				第 7 期 総 合 計 画 計	
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 21	21	21		21	21	21		21	21	21	21		
			実績値 21	21	21		21									
		成果指標 1 (単位/回)	計画値 3	3	3		3	3	3		3	3	3	3		
			実績値 3	3	3		2									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている									
		総合評価					良好である									
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	判断理由： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	判断理由： 定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。		
		今後の方向性					現状のまま継続									
		方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 定期的な点検を行い、史跡記念碑・標柱等の状態を十分把握するとともに、補修や冬場の養生など必要な管理を行い、可能な限り長く状態が維持されるよう努めていくとともに、計画的に修繕を推進することが必要であることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8：				R10：				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：補助金額（郷土研究会補助金）				指標の求め方：補助金額（郷土研究会補助金）										
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：郷土研究会会計会員数				指標の求め方：郷土研究会会計会員数										
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 合 計	
			第 1 年次 （3年度）	第 2 年次 （4年度）	第 3 年次 （5年度）	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 （6年度）	第 5 年次 （7年度）	第 6 年次 （8年度）	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 （9年度）	第 8 年次 （10年度）	第 9 年次 （11年度）	第10年次 （12年度）	実施 4 力年 合 計		
事業 評価	指 標	活動指標 1 （単位/円）	計画値 155,000 実績値 154,800	155,000 154,800	155,000 154,800		155,000 154,800	155,000	155,000		155,000	155,000	155,000	155,000			
		成果指標 1 （単位/人）	計画値 13 実績値 14	13 14	12 14		12 13	12	11		11	11	10	10			
	評 価 内 容	総 合 評 価 の 判 断 理 由 又 は 指 標 の 実 績 値 に 関 す る 自 己 分 析	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）				達成されている										
			事業の成果 （成果指標をもとに評価）					上がっている									
			事業の効率性 （事業費に対する成果）					上がっている									
			総合評価					良好である									
				自己分析： 郷土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成して おり、市の郷土 史等を後世に残 す貴重な資料と して位置づけら れるものとなっ ていることから 、目的を満たす 実績は一定程度 上がっているも のと判断する。	自己分析： 郷土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成して おり、市の郷土 史等を後世に残 す貴重な資料と して位置づけら れるものとなっ ていることから 、目的を満たす 実績は一定程度 上がっているも のと判断する。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し に繋がっている 。	判断理由： 郷土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を補助する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。	判断理由： 郷土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を補助する ことで、市の郷 土史等の貴重な 資料を後世に残 す活動の後押し となった。				
	今後の方向性						現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： 郷土研究誌は、郷土史を後世に伝えるために重要な資料であるとともに、郷土研究会の運営面においても主要な事業として機能していることから、教育委員会としても側面的な支援を行うため、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：年度内に収集した資料数	指標の求め方：年度内に収集した資料数をカウント
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：郷土資料室利用者市民利用率	指標の求め方：郷土資料室利用者数/住民基本台帳人口（3月末）×100

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画	
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計		
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/点)	計画値	50	50	50		50	50	50		50	50	50	50			
			実績値	106	426	628		56										
		成果指標1 (単位/%)	計画値	10	10	10		10	10	10		10	10	10	10			
			実績値	3.5	5.7	6.5		9										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている											
		総合評価					良好である											
		総合評価の判断理由または指標 の実績値に関する自己分析	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和2 年度より1人減 少しているが、 小学校の団体見 学など教育資料 として有効な利 活用が図られて いて、一定の実 績が上がっている。 ボランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和3 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和4 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	判断理由： 1日当たりの利用 者数は令和3 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきており、「良好である」 と判断した。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和5 年度より1.2人 増加し、小学校 の団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性					現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、さらには郷土資料室内展示の改修を検討していく。小学校等の団体見学に利用されており学習教材として利用されている。 視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別してデジタル化し、適切に管理・保存し活用する。収蔵場所の狭隘化の対策として、引き続き資料の整理を進めることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8：				R10：							